

【刊夕】日七十二月四

宗義者智新嵐

厚五稅郵錢十五月一 錢貳金部一
錢十五行一語字三十號五 料告廣
治 文 崎 川 人 刷 印 人 刷 編 行 發
五三町橋長町平郡城石縣島福
番〇三六話電 社開新日每警常 所行發
社會式株刷印日每警常 所刷印

花祭りと釋尊傳

桐原英純

▽勝者として

かつて釋尊が、優樓頻羅村で酷烈な苦行の末最早や一死あるのみと観じて苦樂の二邊を捨てて尼連禪河より這ひ上つて村女の供養を受け給ふや、この時まで修業を共にしてゐた阿若喬陳如らの五比丘はゴドマは既に退轉したりと見限つて波羅奈斯城の去つたのでありました

佛となつて山を下られた釋尊は先づ彼の五群比丘を濟度せんものと思召しそのあとを追はれました、優樓頻羅村から波羅奈斯まで日本里程百五十里、十五日行程としてザツと途中に十五泊せられた事と思はれます、そのあいだ道々化導せられたものか、それとも弘法の縁は生じなかつたものか、史實として多く傳はるところなく、この途中において優姿迦といふ仙人に逢ひ、道を説かれたとあります、その時釋尊の申されたのは「我れは一切の勝者なり」といはれた一語でありました

りました、之が佛の悟りを現はす第一の片鱗であります、私た凡夫は、日常の生活、否な五十年の生涯を通じて恐らくは敗北ばかりであります、酒を呑み煙草を喫し財を求め、名譽を逐ひ情慾に染着するといふやうな行爲が、何等、世を益し、人を救ふ行持ではないと百も千も承知しつゝもその正しき己れの智見に打ち克つことが出来ぬ、さうして世をも人をも汚し合ふて淺ましき葛藤に終始するといふのが人間のすがたであります、若しも此見に住して己れの煩惱に打ち克ち正見の通りに生きてゆくことが出来ずならば、それはまことに聖者といふてよいでせう、勝者といふことは「我れ」といふ染着執持を断ち切ることであつて、真に無我なる事を得ば解脱であり、それをこそ佛といふのでありませう、權勢慾、名譽慾のかたまりが何として聖者であり得るものか

▽智者として
さて波羅奈斯の鹿野苑に着かれた釋尊はそこで曩の日の五群比丘を濟度せられました、彼れ等は既に人樂に退轉せる釋尊に對してはお辭儀一つすることではないう、そこ申し合はせてゐましたが、靜寂にして崇高、解脱その者のやうな釋尊の巍々たる顔容を拜し、我れを忘れて佛足頂禮の儀式を採り、その化導に服して即時に佛弟子となりました。このとき釋尊の説かれた教へは四諦八正道を初めとして、多々あつたのでありませうがその重要なお言葉として「我れは一切の智者なり」と申されました

宗教とは信心なりといふ人あるも、親の愛は信するよりは知るに如かず、佛を知り得ぬ者が後に信の道を歩むことになつたのであります、正しき信の意味は知り得ぬ部分を信用するといふのではなくして、信とは「まこと」であり、まことを知り得ば疑ひは晴れるので信を得て疑ひなきが智であります、三世に亘り十萬を超えて、一切の智を得たりと申された釋尊は如何にもそれぞ佛としての第二の告白であつたでせう。

文藝募集

知り得ぬ者が後に信の道を歩むことになつたのであります、正しき信の意味は知り得ぬ部分を信用するといふのではなくして、信とは「まこと」であり、まことを知り得ば疑ひは晴れるので信を得て疑ひなきが智であります、三世に亘り十萬を超えて、一切の智を得たりと申された釋尊は如何にもそれぞ佛としての第二の告白であつたでせう。

貸切は!

親しみあるサービス
を以つて知られたる
尼子タクシーへ
電話六四〇番
主任 澤正路

吉田眼科病院

平紺屋町、電話六八八番

國産セイコー腕時計

抽籤附特賣!

- クローム側腕時計八圓半ヨリ
金側全十七圓半ヨリ
- 一等 16形ブラチナ側腕時計 市價 百十圓
 - 二等 16形十八金側腕時計 六十二圓
 - 三等 OS製扇風機 同 二十六圓
 - 四等 OS月光裏給目覺同五圓
 - 五等 OS硝子置足付同 二圓
- 特賣期間 六年五月卅一日迄
その他貴金屬、時計新値下品澤山
修繕値下 勉強を生命と致します
鐵道省御用 金光堂時計店
平五 電話一九五

外科

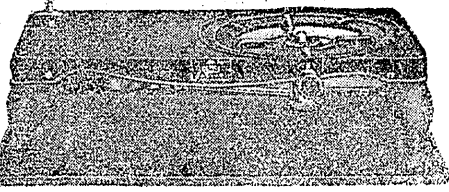
平新川町十九

内臟外科 醫學士 松永憲一
整形外科 外科一般
木村病院
産婦人科院長從前通り診療

度量衡、計量器、吸入器

用酸素、酸素吸入器
關内藥局
電話四〇番

瓦斯や電熱より經濟で便利な變性アルコールを燃料とする尖端的の特許
自家瓦斯發生器生る



(しな差大と油石段値ルーコルア)

釜屋商店

平町五丁目 電話九番 九九番

外科 X光線科

性病科 科科
安齊外科醫院
平町田町
電話四七五番

入學兒童の體格が 年々に不良化する

平町の由々敷問題 背ばかりヒョロ／＼伸びて

平町における入學兒童の體格が年々低下して行く事は毎年の統計において立派に證明されてゐるので學校當局では年々兒童の入學と共に、各受持教師を

炭價引上げ 最近として

嗜好物から遊劇等の類に至るまで可成り廣い範圍に亘る調査をなし、それによつて、兒童の體格に適した方法をとり學校と家庭が連絡を保つて兒童保健の向上を計つておるも實績は更にあ

道路愛護 宣傳準備

五月一日に第二回道路愛護デーの來る

に配布せしめ尙廿三の愛護園は道路の改修をなす等有効なる普及を計るべく係員が準備中である

小川江筋議員 石郡

郡小川江筋普通水利總會議員改選は二十五日四倉町外六ヶ村役場に於いて選舉會を行つたが二十七日迄の當選者左の如し

(大浦村)酒井良平、箱崎熊八、根本直之助、片寄甚松、會田廣吉(草野村)高岡忠、富岡市平、高岡唯一郎、芳賀元治、猪狩米造、渡邊重傳、松本重之助、坂本房義(神谷村)箱崎昇吾、中野惣吉、片寄喜助、片寄伊之次郎、西山喜代太(平窪村)木田源三郎、松崎松治、矢吹與助、小川根之松、鈴木竹次郎(四倉町)長谷川雄太郎

平青年團の總集會

日米號の聲援や役員改選 川崎本社長の満州談

平町青年團總集會は廿九日天長節の祝日を卜し午後一時よりマルトモ樓上に開催、決算及び豫算を附議して報知新聞日米號の聲援に關する決議を爲し役員の改選に移る筈であるが團長藤田榮助氏は在郷軍人分會長に就任し用務多端の爲め勇退するの結果副團長多田井笑次郎氏が團長に就任すべく同時に副團長の馬目雅治氏満期退團し兩氏の後任及

滿鮮土産談

支那料理は、フランス料理と共に、世界一の美味を以つて、聞えて居るが、僕は長春で、本縣出身の滿鐵社會施設係高橋君の御家族に招かれ「寶宴樓」での晚餐と、奉天「洞庭春」に於ける縣人會幹部の歡迎宴とで生ツ粹の支那料理に舌鼓を打つた。

支那料理は、シツコクてアクドイ味とばかり思つて居たが、生ツ粹のものを食べて見るに及んで「成程世界一」だと、初めて僕の味覺は、大跳躍を感じた。

みんなで圍んだ丸テーブルの真中に、運ばれる大皿の料理を、夫々自分の小皿に、長い象牙の箸で盛り分けながら食へるんだが、支那料理の第一印象は、料理から立のぼる油の芳香である。料理といふ料理が、殆んどみな油づくめであるにも拘らず、あんなにアツサリした味に食べさせる腕は、全く大したものである。

油も肉も、大くは豚である、一体漢民族は、往古は羊を主要の食物として居り、羊の大なるものを美として居たが、其後豚を好むやうになつた爲めに、豚の飼育が盛んとなり「豚と共に住む」即ち、ウツの下に家と、いて家となした、此れ故に彼等の祖先は家であ

今日の話

生姜の貯藏法 生姜を砂または土の中にいけておくことはよく知られてゐますが、この頃は直ぐに芽が出てしまひあしも悪くなります、これを紙に包んでからいけておくといつても生きたものを賞みすることが出来ます。

彼等の生活と豚との關係は、斯くの如く密接である、故に豚肉の需要は非常に多いの結果として、満州

免許狀授與

池坊 龍生派 免許狀授與
今般石城郡平町六丁目華道教授正木旭松門弟常ニ華道熱心ニシテ日夜勉勵成績優良ナルヲ以テ茲に昭和六年四月十九日東京家元ニ於テ春季立華生花大會合格ノ上左ノ人名ハ免許狀授與セラ

教員免許狀	平	正木ヒサ子
同	平	佐藤ミヨ
同	植田	柴キヨ
同	同	佐藤ハツ
皆	平	渡邊ツナ
同	植田	二階堂ヨシノ
中	平	廣田マサ
初	平	満山リン
同	平	吉野シゲコ
同	鹿島	佐藤リン
同	植田	木村サト
同	全	馬村サト
同	全	古川ミト
同	全	櫻田サト

滿州駐屯軍の 慰問費調達

在郷軍人分會の映畫會

入江少佐が説明

平在郷軍人分會にては來月二日午後一時から聚樂館に於て軍事映畫大會を開く、これは同會の資金を造成して目下滿州に駐屯し國威伸長に日夜努めて居る第二師團下の將卒に對する慰問費を調達する爲めであつて會費は僅か二十錢、上場映畫は日の丸を巡りて、肉彈の勇卒、滿州駐劄軍の實況日本一の桃太郎、義勇奉

石城民政部會が

野崎滿藏氏を除名

此の縣議戰を控へて 政敵以上の争を續く

石城郡民政部會では二十六日正午からの比佐代議士陸軍參與官就任祝賀會に先立ち午前十時から平町南町部會樓上に急遽部會總會を開き左記の如く役員の改選をなして分會長に若松美三氏幹事長に萩原義雄氏を推し終つて縣議野崎滿藏氏の除名を決議したがこれによつて部會は完全に分裂する事になるので秋の縣議戰を控へて兩派は一層政敵以上の争ひを續けるものと見られてゐる

吉田五平、石川徳壽(幹事長)萩原義雄(常任幹事)荒川淺次郎、其他

比佐參與官
昨日聚樂館で
就任祝賀會

比佐陸軍參與官の就任祝賀會は二十六日午後一時から平町聚樂館で開催若松縣議の辭について比佐參與官の挨拶あり終つて磐城中學同窓會長、石城郡在郷軍人聯合分會長の祝辭朗讀あつて三時閉會したが會員は約一千名に達し頗る盛會であつたのは午後六時から同町に政談演說會を開催した

千名に達し頗る盛會であつたのは午後六時から同町に政談演說會を開催した

提灯行列

五ヶ町が聯合

本日の結核豫防デーに關し長橋町、研町、材木町、紺屋町、古鍛冶町五ヶ町衛生組合は聯合して今晚提灯行列を行ふ由

議會報告

郡内數ヶ所に

石城郡友部會にては昨日幹部會を開き木村代議士の議會報告演說會を開く件に關して協議した結果來月一日出身地大浦村を振り出しに勿來、上遠野、小川、江名内郷、好間等に開催し更に本部より總務級の特派員の來郡を求め平町、四倉、小名濱、植田等に於て現内閣打倒の氣勢を擧げる事となつた

明大生と

洋裝美人が抱合して

勿來で鐵道心中

廿五日午後七時二十一分頃常磐線仙臺發土浦行第三三六號旅客列車が關本、勿來間勿來の關跡に通ずる踏切りに差かゝりし際突然若き男女が

飛込み 即死を遂げた

明日のラジオ

廿八日

報豫氣ラ

今夜は南よりの風曇明日は雨模様の見込

今晚の部

- 後六、〇〇(子供の時間) 大毒縣遊藝會「一大毒縣遊藝會のお話」陸軍少將猪狩亮介、二大毒縣遊藝會「祝日の歌」廣島追徳高等女學校合唱團
- 後六、三〇 英語講座「初等科七」岡倉由三郎
- 後七、〇〇 全國ニュース 河北新報社ニュース 氣象通報 告知事項 番組
- 後七、二五 産業ニュース
- 後八、〇〇 琵琶「五條橋水藤錦標
- 後八、三〇 ハーモニカ獨奏 小林薫粹
- 後八、五〇 放送新派劇「或る日の三藏」大井新太郎其他
- 後九、四〇 時報 全國ニュース 氣象通報 番組
- 明日の部 前六、三〇 ラヂオ体操

學校荒し

石城を横行

石城郡内郷村高坂尋常高等小學校に去る二十三日から二十四日未明にかけて賊忍び入り宿直室から衣類、現金等を窃取逃走したのを小使が発見平署に訴へ出たが最近また、各村の學校を荒し廻るコン泥が横行するに至つたので平署では犯人嚴探中

下髪の美人で所持品

大學生の正服正帽にレイン

大學生の正服正帽にレインコートを着し長髪の青年、女は小柄な

下髪の美人で所持品としては男のポケットに東京第一貯蓄銀行の預金帳と「みるひとのころころ」にまかせおきて、たかたにすめるあきのつきかな、しげ雄、まつ代」と書いたハンカチーフがあり二十二日夜から植田驛前渡邊屋旅館に滞在した兩人らしく

野宿する怪賊

炊事道具を持參して

自稱石城郡三坂村生れ大所市藏(五)は田村郡小野新町方面で衣類専門の空巢狙ひを働か職品全部は柳行李ならびに脊負ひ籠に積み二十六日小野新町驛から平驛にテツキで送り夕刻平驛に下車、小荷物係から荷物を引取らんとしてゐるところを平署員に檢舉されたが、同人は鍋釜類の炊事道具一切を持參野宿しながら各地に出没を働いてゐたもので職品は平署の刑事室に山をなしてゐる

徴兵忌避者

平町で捕る

石城郡小名濱町常時住所不定江尻政治(三)は徴兵検査を忌避して逃走中二十三日平町で捕はる

藤沼醫院

平町紺屋町 電話五〇七番

結核豫防

ビラを撒布

本日の結核豫防デーでは醫師會、衛生組合、産婆看護婦會及び平署が協力して自

常磐露商總會 平町を中心として小名、湯本、宮方面を區域として組織されてゐる常磐露商組合は會

セメント
壁用材料
コールタール
ペンキ塗料
板ガラス

磐城セメント株式會社
代理店 西村屋藥舗
平町三丁目電二三

製造發賣元
たけや茶店

本品の特長

- 一、本品は卵及び蜂蜜を多量含入製造したるものにして滋養豊富にて實に本品三ケで卵一個の効力を有す
- 一、日数を經るも軟かにして變味の憂ひ絶對なく子供、老人、病人、辨當代用、進物用として最も適す
- 一、最新式機にて製造し大量製産なるが故に價格低廉なり

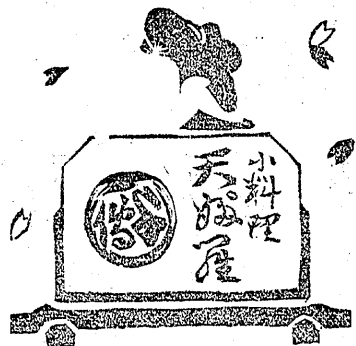
玉子ケーキ
十ヶ入金十銭

最も新らしき柄の
銘仙とモスリン着尺
優秀特選
春の帶側
いづれも新品豊富に取揃へました
是非御覽下り

三井吳服店

春衣新柄御案内

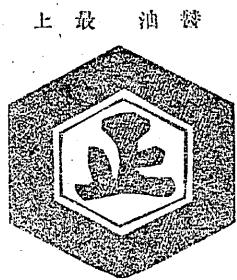
是非折詰辨當の
御注文を願ひます



吉傳 前局平
電話呼 八二五番

九升樽詰 一本 四、二〇
二リットル入 罐詰 一本 六二
至誠堂石鹼三ヶ入 一函
ライオン洗濯石鹼 一個

特約店 永山酒店
平町田町 電二〇七番



醸造高六万石(全國第三位)

健胃
小野常治謹製

入院隨時

市原醫院
平町田町(電話一四四番)

内科、小兒科 市原卯太郎
外科一般、婦人科 市原陸郎
外科、梅毒、淋毒 市原三三男

器灸温ムウチラ

醫學博士名推獎

胃腸病 婦人病 其他の慢性諸症
肥り度い人の福音 熱くなく痕つかす無煙式 誰にも出来る理想的家庭治療器

許特賣專
約卸治 福島縣平町五ノ廿八
志賀齒科醫院
福島縣平町白銀町九
產婆 關口悦子

特賣部
金拾參圓上製 桐箱入一揃
金拾圓上製 桐箱入一揃
(説明書呈)



おぼえ

東京 橋場射刺 (米田安藏畫)

「安さん、お前の家へは来たか?」
「来た、来た。お前の家へは来た。お前の家へは来た。」
「お前の家へは来たか?」
「来た、来た。お前の家へは来た。お前の家へは来た。」

「お前の家へは来たか?」
「来た、来た。お前の家へは来た。お前の家へは来た。」

「お前の家へは来たか?」
「来た、来た。お前の家へは来た。お前の家へは来た。」



て總は命用御の物刷印
番〇三六話電 會株式刷印日每警常